

ANNOUNCEMENT

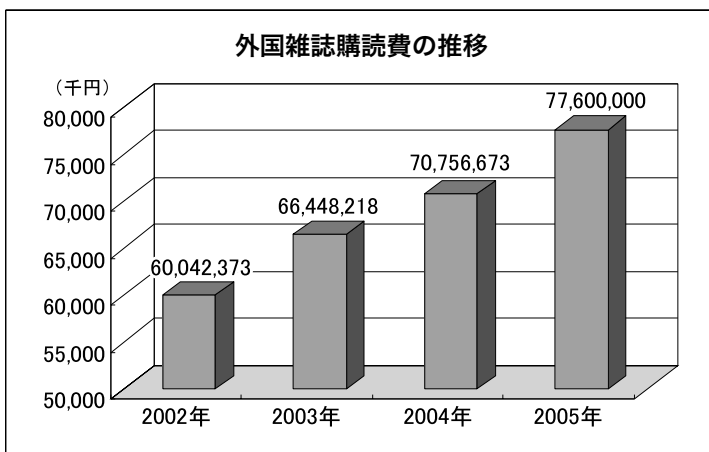
センター報

平成 18 年度外国雑誌購読の検討

現在慈恵大学で購読している外国雑誌は約 450 誌あり、その多くが年々著しい値上がりをしている中、ここ数年は購読中止を控えてまいりました。しかしながら、そのためのしわ寄せが単行書の購入予算等に及んでおり、平成 18 年度はある程度の外国雑誌購読の中止を行わざるを得ない状況にあります。

現在図書館で実施している外国雑誌の利用調査の結果や電子ジャーナルの利用の可否等を踏まえ、コア雑誌を除いた約 300 誌について、中止候補誌の選定を行っています。利用者の皆様にはできるだけご不便をかけないような結論を出したいと思いますが、この件につきまして、皆様からご意見・ご提案等ございましたら、図書館までお寄せいただければ幸いです。

また、9 月には雑誌購読と図書館のあり方についてのシンポジウムを 3 月に引き続き開催したいと計画しています。あらためてご案内いたしますので、ぜひご参加ください。



(医学情報センター・総務 内線 71-2121)

も く じ

平成 18 年度外国雑誌購読の検討	1
色覚バリアフリーについて	2
新・一歩進んだ検索テクニック① JCR	3
英国訪問記 その 1	5
平成 16 年度利用統計② 図書館 (国領分館)	7
OID Biomedical Collection の購入中止について	8
ありがとうございました	10
雑誌案内	10
新着案内	11
お知らせ	14



The British Medical Association Library
英国 (ロンドン)

色覚バリアフリーについて

医学科5年79番 坂本 広喜

今までに色覚バリアフリーという言葉を目にしたことがある方がどれくらいいるのでしょうか。身体の不自由な方々へのバリアフリーという言葉は普段からよく耳にしますが、色覚障害に対するバリアフリーという言葉は目にしたことがないという人がほとんどだと思います。私は平成17年5月20日に行われた医学論文の書きかた講習会「色覚バリアフリーな論文の書き方とプレゼンテーション」に参加し、そこで初めて色覚バリアフリーという言葉を目にしました。この会ではDNA医学研究所器官発生研究室の岡部正隆先生を講師としてお招きし、色覚バリアフリーについてお話していただきました。

まず、色覚バリアフリーについて話す前に色覚障害について説明します。人間の網膜には3種類の錐体細胞があり、それぞれ赤、緑、青を感じる視物質を持っています。これらのうちどれかひとつでも機能が損なわれた状態が色覚障害です。この色覚障害には第1・2・3色覚障害と全色盲があり、それぞれ赤、緑、青、これらのうち2つ以上、の錐体細胞が障害された状態をいいます。その割合は、第1色覚障害は約25%、第2色覚障害は約75%、第3色覚障害は0.02%、全色盲は非常に稀です。日本人の色覚障害の割合は、男性では20人に1人、女性では500人に1人となっています。この割合からすると自分の周囲にも必ずといってよいほどいることになり、決して珍しくはないといえます。

次に、色覚障害のある人にはどのように色が見えるのか簡単に説明します。第1色覚障害と第2色覚障害では同じような見え方になります。つまり、赤-緑の波長域で明るさが同じくらいの色の識別が困難になってきます。第3色覚障害の場合は、色覚障害のない人は色の識別において赤と緑からの情報を重点的に利用しているために、色の感じ方は色覚障害のない人に近いですが、青と緑の識別がかなり難しいです。全色盲では白黒画像のようになります。では、これらのことがどのような場面で問題になってくるのでしょうか。私たちは文字等を強調したいときに赤色を使うことが多いと思います。しかし、これは第1色覚障害の人にとっては逆効果になります。なぜなら、第1色覚障害の人にとって赤は最も識別しにくい色だからです。ですから、道路標識や駅の電光掲示板、ホワイトボード等では、最も強調したいことがかえって伝わりにくくなってしまいます。また、病院等では色の違いによる誘導線が床に書かれていることがありますが、ここでも問題が生じます。なぜなら、案内標識と床に書かれた誘導線の色との照合が難しいからです。では、どのようにすればよいのでしょうか。赤に関しては、濃い赤や強い赤は使わずに朱赤やオレンジを使うと色覚障害の人でも識別しやすくなります。誘導線に関しては、案内標識と誘導線に番号を付けたり誘導線の脇にも行き先を記すと色の識別ができなくても問題がなくなります。

このように、色覚バリアフリーというのはとても身近なことであるということが分かると思います。ちょっと視点を変えてみるだけで、日ごろ何気なく見ているものでもいろいろな発見があると思います。時として、そういったところに何か大きなヒントが隠されていることもあるのではないのでしょうか。このことは、医療に携わる私たちにとってとても大きな意味を持つと思います。なぜなら、視点を変えて医療や医師-患者関係をみつめることによって初めて、患者さんの気持ちや医療界へのニーズを理解することができるからです。

最後に、色覚バリアフリーに興味を持たれた方は色覚バリアフリーのホームページ (<http://www.nig.ac.jp/color/>) を覗いてみてはいかがでしょうか。きっと新たな発見があるに違いありません。

JMJ編集委員会と慈恵医大誌編集委員会では、毎年5月に「医学論文書きかた講習会」を共催しています。

今年度は、5月12、17日に岡崎真雄助教授(医学情報センター)による「英語論文の書きかた」を、また20日には、DNA医学研究所器官発生研究室の岡部正隆先生を講師に迎え「色覚バリアフリーな論文の書き方とプレゼンテーション」を開催し、坂本さんにその模様をご報告頂きました。

色覚バリアフリーのホームページのほか、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 CUDO のホームページも是非ご覧ください。 <http://www.cudo.jp/>

新・一歩進んだ検索テクニック ⑩

Journal Citation Reports (JCR) の新機能

JCRはこの6月に2004年のデータが追加されました。新機能も加わりましたのでご紹介します。

JCRとは？

雑誌ごとに1年間の掲載論文数や、引用データをまとめたデータベースです。同一分野の雑誌を比較することができます。本学では約5,900誌を収録したScience EditionのWeb版を利用できます。

新機能1「Category Aggregate Data」

これまではImpact Factorなどのデータは雑誌ごとに集計されていましたが、カテゴリー単位でも算出されるようになりました(図1)。異なるカテゴリー間で引用の動向を把握するなどの比較評価ができるようになりました(図2)。

図1 カテゴリー単位での引用データ

Total Cites	Median Impact Factor	Aggregate Impact Factor	Aggregate Immediacy Index	Aggregate Cited Half-life	Aggregate Citing Half-life	# Journals	Articles
467616	1.436	2.483	0.389	6.80	7.40	140	16082

図2 複数カテゴリーでのデータ比較

Rank	Category (linked to category information)	Total Cites	Median Impact Factor	Aggregate Impact Factor	Aggregate Immediacy Index	Aggregate Cited Half-Life	# Journals	Articles
1	CLINICAL NEUROLOGY	467616	1.436	2.483	0.389	6.80	140	16082
2	NEUROSCIENCES	973220	2.303	3.496	0.578	6.30	198	25133

新機能2「Related Journals」

特定のカテゴリーの雑誌をよく引用する雑誌、引用される雑誌の関係から、関連の深い雑誌がわかります。

図3 Clinical Neurology 分野の Related Journals

Sorted by: SORT AGAIN

Journals 1 - 20 (of 1941) Page 1 of 98

R _{max}	Related journal (j)	Relatedness (R)	
		Subject Category to j	j to Subject Category
76.17	ANN NEUROL	76.17	19.83
59.09	BRAIN	59.09	21.29
57.77	ARCH NEUROL-CHICAGO	57.77	27.57

< カテゴリーでのデータを見るには >

Select a JCR edition and year:
 JCR Science Edition [2004]

Select an option:
 View a group of journals by **Subject Category**
 Search for a specific journal
 View all journals

SUBMIT

1. 最初の画面でこれを選択

1) Select one or more categories from the list.
 (How to select more than one)

ACUSTICS
 AGRICULTURAL ECONOMICS & POLICY
 AGRICULTURAL ENGINEERING
 AGRICULTURE, DAIRY & ANIMAL SCIENCE
 AGRICULTURE, MULTIDISCIPLINARY
 AGRICULTURE, SOIL
 AGRONOMY
 ALLERGY
 ANATOMY & MORPHOLOGY

2) Select to view Journal data or aggregate Category data.
 View Journal Data - sort by: Journal Title
 View Category Data - sort by: Category Title

SUBMIT

2. カテゴリーは **Ctrl** キーで複数選択可

3. こちらにチェック
 (上段は雑誌単体のデータを表示)

< Related Journals をみるには >

Rank	Category (linked to category information)	Total Cites	Median Impact Factor	Aggregate Impact Factor	Immediacy Index	Cited Half-Life	# Journals	Articles
1	CLINICAL NEUROLOGY	467616	1.436	2.483	0.389	6.90	140	16082
2	NEUROSCIENCES	973220	2.303	3.496	0.578	6.30	198	25133

1. 上記の手順で、雑誌単体または
 カテゴリーのデータを検索
 2. 一覧画面でリンクをクリック

Category: CLINICAL NEUROLOGY

Total Cites	Median Impact Factor	Aggregate Impact Factor	Aggregate Immediacy Index	Aggregate Cited Half-life	Aggregate Citing Half-life	# Journals	Articles
467616	1.436	2.483	0.389	6.90	7.40	140	16082

Cited Category [] Citing Category [] Source Data Publication Frequency

3. これをクリック

詳しい操作方法は、図書館に利用ガイドをご用意しています。また、講習会も開催しておりますので、ご参加ください。

(図書館・利用サービス係 古関 内線 71-2122)

英国訪問記 その1

医学情報センター・図書館
利用サービス係 宮下牧子

昨年2004年11月27日から2週間、NPO 法人日本医学図書館協会が主催する海外研修の機会を得て、英国のロンドンに医学図書館の視察に行ってきた。訪問先のアポイント取りから航空券・滞在先などすべての手配を自分でし、独りきりで外国に行き、しかも視察をしてくるなんて、そんな日が来ようとは去年の今ごろには思いもしなかったことだ。今回の研修のなかで、印象に残ったことをここでいくつか報告する。

私が今回の研修の研究テーマとして申請し受理されたのは、「英国における医療従事者および一般向けの医療・健康情報の提供という観点から医学図書館の取り組みについて」だった。ご存知の通り英国の医療は国営で提供されている。そのため英国では病院経営も医師の雇い主も国なのだ。日本は保険診療が主で、病院経営が主に民営であるからか、同じ保険診療を行う米国の情報のほうが多く入ってきている。私達が日常的に文献検索で利用しているPubMedも米国の作成しているデータベースであり、医療に関して米国は結構身近な存在なのではないだろうか。それに引き換え英国のデータベースで日本でも有名なのはコクランライブラリーくらいだろうか。かく言う私もこの研修のために英国の図書館に関する文献を慌てて読みあさったくちなので大きなことは言えないが、知ってみると英国の医療制度から日本が参考にできることは少なくないと思った。読者の皆様にも興味を持って読んでもらえそうな話題として、①英国の医師はいかにして医療情報を手に入れているのか、②英国の患者図書館、についてロンドン情報とともにお伝えしたいと思う。



* Royal Free Hospital Medical Library

この図書館は University College London のハムステッド校の大学病院内にある。ハムステッドは、ロンドン中心街からちょっと北西に位置し、ロンドンとは思えない静かな郊外の雰囲気を持った町だ。特に何もなところなのだが、中心部のように人が多くなくて個人的には散策してみたいところだった。

ここの病院は医学部と隣接しており、図書館の利用者も医師などの医療従事者と医学生である。全体の環境は慈恵医大と似ているのだが、異なる点はこの病院が英国の保健省 (National Health Service :NHS, 以下 NHS) の関連施設 (以下トラスト) であるという点だ。先にも書いた通り、国営で医療を提供している英国では大型病院のほとんどが NHS のトラスト病院である。そしてそこで働く病院職員は「大学病院」に勤務しているにも関わっていることになるため、大学が大学職員向けに購入する電子ジャーナルを利用できないの

である。これは英国中の医師にとって大問題であるだけでなく、患者がどこでも同じレベルの医療を受けられる、ということに対して責任を負っている英国およびNHSにとっても大きな問題である。そこでNHSではNHSトラスト病院で働く医師および医療従事者がいつでもどこからでもアクセスできる情報源をインターネット上で提供し、そのページの中で独自に購入した電子ジャーナルをも提供している。NHSトラスト職員は誰でも、たとえば直接医療に関わっていない掃除係であったとしても、それらの情報を入手することができるのである。アクセス方法はNHSのホームページから個々人に発行されたパスワード（職場の職員番号などと同じ）を入力するだけで、自宅からでも深夜でも電子ジャーナルの全文を読むことができる。

以上のような理由から、大学病院図書館は大学が購入する電子ジャーナルも日本で人気のあるIPアドレス認証（大学内のパソコンならばパスワード無しで閲覧ができる認証システム）ではなく、個々人にパスワードを発行することで閲覧できる認証システムを採用している。この認証方法も、NHSの採用している認証方法と同様にいつでもどこからでもアクセスができる。この図書館は館内にパソコンの台数が少ないため、大学関係者とNHSトラスト職員とで使えるパソコンを区別したり、利用説明会も利用者にあわせて2パターン用意するなど工夫していて、図書館サイドとしてはなかなか大変そうだったが、利用者にとっては全体的に利点が多い認証システムではないだろうか。日本でも普及するととても便利だと思う。

NHSは他に技術訓練や診療ガイドラインの作成、患者・一般向け医療情報の提供にも力を入れているのでそのことについて次号では触れたいと思う。

*冬のロンドン

個人的な話だが、ロンドンはこれで2回目、1回目は7年前の夏の終わりだった。夕飯を食べ終わってもいつまでも暮れない空と、食事がおいしくなかったというのがとても印象に残っている。今回は冬の始め。どんな顔を見せてくれるだろうと思っていたら、午後4時にはあたりが真っ暗になってしまい、心細さについて家路を急いでしまう日々だった。幸い街はクリスマスシーズンを迎えたところで、中心街はイルミネーションが美しく一人旅のすきみがちな気持ちをやわらかくしてくれた。それだけで絵になる古い建造物に電飾がまかされている姿は、見慣れた東京のイルミネーションとは違って「ヨーロッパにいる！」という気持ちを高めてくれて、やはり良いものだった。

ロンドンは北海道くらいの緯度だそうで予想以上にすごく寒かった。私はダウンコート&ストール&手袋でもしのぎきれず、現地で帽子まで購入したというのに、土地の人にとってはまだ冬の初めとまで言えないのか、キャミソール一枚で素足にサンダルの子をしょっちゅう見掛けた。この差は何なのだろう。日本人と白人では脂肪の質が違うのか？と毎日真剣に考えていた。

食事については相変わらずかと思いきや、案外美味しいものを食べられた。飛行機もBritish Airwaysを利用したが、特に問題はなく普通においしかった（ただし日本食を英国風にアレンジしたものを選ばなければの話だが）。英国でレストランに入るなら、私のお勧めはタイ人の経営するタイ料理屋と、イタリア人の経営するイタリア料理屋だ。英国人以外の人を作ったものはだいたいおいしいというのが実感。多民族国家バンザイ！である。しかし先日のロンドン地下鉄爆破テロのニュースを聞いてつい「多民族国家のもう1つの顔を見せつけられた！」と思ってしまった。がこの考えも幻想にすぎないのかもしれない。なぜなら日本でだって何が起きてもおかしくないし、現にいろいろ悲惨な事件は起きているではないか。世界平和はいつ訪れるのか？そのために何ができるか？歌の歌詞みたいになってきたが世界平和が「テーマ」で終わらずにいつの日か実現するとよい。また、ロンドンの人々と、私同様英国を愛する全ての人の悲しみと傷跡が一日も早く癒えることを祈っている。食事の話で余談だが、日本食はロンドンでも人気で高級料理なのだそう。でもロンドンで見かける日本料理屋は明らかに何か間違っている、というのが店の外見からうかがえたので、行かれる方はどうぞご用心を。

平成 16 年度利用統計②図書館（国領分館）

前回に引き続き、図書館国領分館の利用統計についてご報告します。

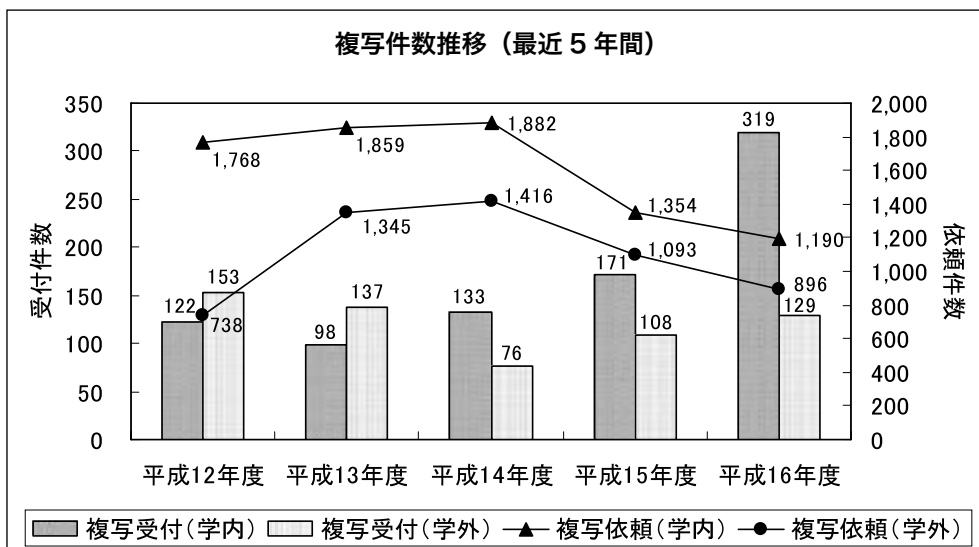
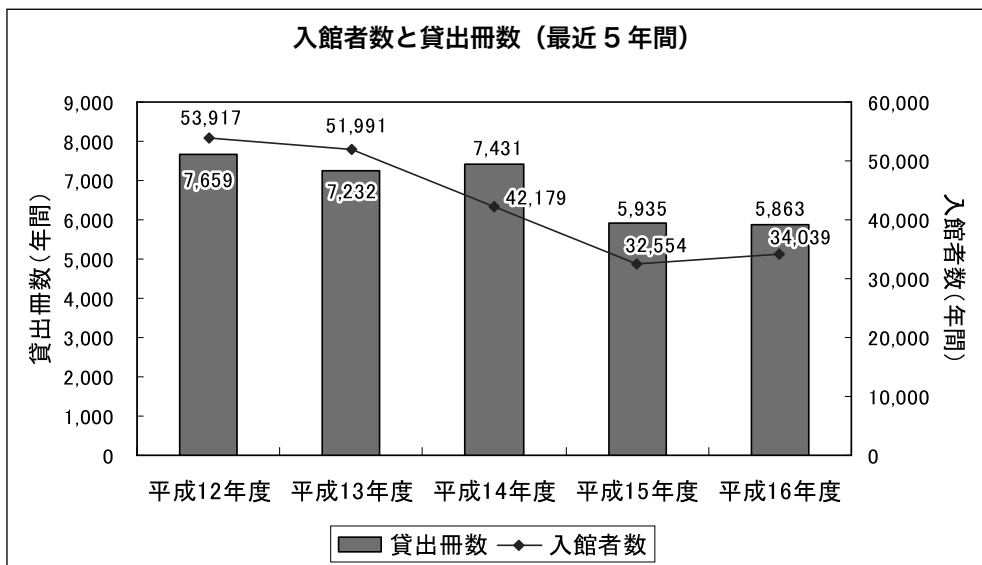
1. 入館者数 34,039 人（平均 119.4 人／日）

2. 館外貸出冊数 5,863 冊（平均 20.6 冊／日）

3. 文献複写（依頼・受付）

依 頼 学内：1,190 件 学外： 896 件

受 付 学内： 319 件 学外： 129 件



（図書館・国領分館 栗山 内線 73-2402）

OID Biomedical Collection の購入中止について

医学情報センターのホームページから、OID Technologies 社の電子ジャーナル「Journals@OID Full Text」が利用できるようになっております（「医学情報センター <http://j-net.jikei.ac.jp/~micer/>」 - 「Quick Menu “OID”」）。

現在、ここでは医学分野の約 40 タイトルの雑誌が利用できますが、これらはタイトルごとで個別契約しているのではなく、複数タイトルがパッケージになっている「OID Biomedical Collection」という製品を購入しています。

図書館では、9月から、「OID Biomedical Collection」の購入を中止し、40 タイトルのうち、OID 以外で利用できないタイトルのみを個別で契約することになりました。

パッケージ「OID Biomedical Collection」の購入から個別タイトル契約へ

本学では、「OID Biomedical Collection」の購入を、平成 12 年度に開始しています。当時は電子ジャーナルで利用できるタイトルも限られており、医学関係の複数の雑誌が提供されている「OID Biomedical Collection」は、本学における電子ジャーナル利用の普及に影響を与えました。

その後の電子ジャーナル製品の増加に伴い、「OID Biomedical Collection」に含まれる雑誌のうち他手段で参照できるタイトルが増えてきました。

たとえば、Circulation 誌は、現在、本学では OID のほか、ProQuest と HighWire というシステムからも利用できます。2004 年 1 年間の Circulation 誌の各システムでの利用回数は、OID 73 回、ProQuest 63 回と HighWire 4,056 回でした。

このような事情から、図書館予算も考慮し、電子ジャーナル約 40 タイトルが含まれる「OID Biomedical Collection」の購入を中止し、OID 以外で利用できないタイトルのみを個別契約することになりました。したがって、たとえば Circulation 誌は、9 月以降は、ProQuest と HighWire での利用となります。

OID での中止タイトル (OID 以外のシステムでの利用となるもの)

以上のことから、次のタイトルは、9 月から、OID のシステムでの利用はできなくなりますので、ご了承ください。

表. 平成 17 年 9 月から OID 以外のシステムでの利用となる電子ジャーナル

American Journal of Obstetrics & Gynecology	American Journal of Psychiatry
American Journal of Public Health	Annals of Internal Medicine
Archives of Dermatology	Archives of General Psychiatry
Archives of Internal Medicine	Archives of Neurology
Archives of Ophthalmology	Archives of Surgery
BMJ (British Medical Journal)	British Journal of Haematology
British Journal of Surgery	Chest
CMAJ (Canadian Medical Association Journal)	Diabetes
Gut	Heart
JAMA: Journal of American Medical Association	Journal of Bone & Joint Surgery (US Volume)
Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism	Journal of Clinical Investigation
Journal of Clinical Oncology	Journal of Clinical Pathology
Journal of Neurology, Neurosurgery, & Psychiatry	Journal of Pediatrics
Mayo Clinic Proceedings	Nature
QJM: Monthly Journal of Association of Physicians	Thorax

電子ジャーナルの利用方法 ～ OVID の特徴と関連して～

OVID の特徴として、フルテキストが基本的には HTML 形式で提供されること、OVID の各データベースの検索結果からフルテキストがリンクされることが挙げられます。OVID 以外のシステムではこれらの機能は制限されます。今後、これら機能の必要性について、利用者の皆様からの意見をお聞きして考えなくてはならないと思っております。

・HTML 形式か PDF 形式か

フルテキストを参照する際、HTML と PDF のどちらを利用するかは、目的や好みに左右されます。

HTML では、リンク機能を利用して本文から参考文献へ移動したり、図表を拡大して表示することが可能です。一方、PDF は、プリント版の雑誌の印刷と同じフォームで表示されるため、基本的にはリンクや図表拡大表示の機能はありませんが、プリント版の雑誌に慣れてきた方には読みやすいと思われれます。現在、本学では PDF の利用件数が多いのですが、今後も常に利用動向を把握し、どの形式のフルテキストを用意するか検討する必要があります。

・データベースとの連動機能

OVID から提供されているデータベースで検索された文献が、OVID の電子ジャーナルで利用できる場合、検索結果からマウスのクリック 1 回でフルテキストを参照することができます。

本学での電子ジャーナルの利用では、目的とする論文を雑誌名と巻号から直接探すことが多いようです。最近では、データベースと電子ジャーナルの連動により、論文を探して読む時、その論文が掲載されている雑誌という物体をイメージしないで、論文を 1 つの単位としてとらえることもあるかと思われれます。この傾向が強くなるようでしたら、論文 1 つ 1 つを管理し、相互リンクが可能となるシステムの導入の検討を進める必要があります。

(医学情報センター・図書館 総務 北川 内線 71-2121)

*** ありがとうございます ***

図 書 館

著者からの寄贈

青戸病院外科	吉田 和彦助教授	胃ガンのすべてがわかる本 久保田哲朗 吉田和彦 米村豊著 学習研究社 2005 320p.	¥2,500
愛知淑徳大学文学部 (元医学情報センター)	山崎 茂明教授	看護研究のための文献検索ガイド 山崎茂明 六本木淑恵著 日本看護協会出版会 2005 210p.	¥2,200

一 般 寄 贈

眼科学講座	北原 健二教授	日本航空健康管理室調査研究年報； 2000-2001, 2002-2003	各 1 冊
-------	---------	--	-------

国 領 分 館

著者からの寄贈

精神科	中村 敬助教授	森田療法で読む うつ 白揚社 2005 264p.	¥1,900
看護学科	奥山 則子教授	レプリカ看護師国史対策 '06 TECOM 2005	4 冊 ¥5,000

*** 雑誌案内 ***

新規受入

Journal of Electrophoresis 49 巻 (2005 年) から

※ 電気泳動学会の英文誌です。

※ 和文誌「生物物理化学」は 1 巻 (1951 年) から所蔵しています。

** 新着案内 **

図 書 館

新着案内 (和書) (2005. 5. 16 ~ 6. 19)

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
QU61/Ka950	見直されたビグアナイド: 塩酸メトホルミン	河盛隆造編集	フジメディカル出版	2005
QY4/To460	東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部創設 45 周年記念学術シンポジウム記録	相曾正義ほか編	東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部	2004
QY58/H410	ヒト疾患モデル: 難病の病態解明と診断・治療への応用	秦順一編集	文光堂	2004
QY400/O840	移植・輸血検査学	大谷文雄ほか編	講談社	2004
W13/Ka860d (参考 3)	医学英和大辞典 改訂 12 版 / 西元寺克禮編	加藤勝治編	南山堂	2005
W18/Y861	実践 PBL テュートリアルガイド	吉田一郎ほか編著	南山堂	2004
W20.5/To4402 /2003(厚特)	厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業特定疾患のアウトカム研究:QOL、介護負担、経済評価班研究報告書平成 15 年度総括・分担		京都大学大学院医学研究科	2004
W32/Ki170/2005/参考 10	基本医療六法 平成 17 年版	基本医療六法編纂委員会編	中央法規出版	2005
W33/Ka590a	詳解感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 改訂版	感染症法研究会編	中央法規出版	2004
WA850/Ka860c	基礎医学統計学 改訂第 5 版	加納克己ほか共著	南江堂	2004
WB105/N470b	よくわかる人工呼吸管理テキスト 改訂第 3 版	並木昭義、氏家良人編集	南江堂	2004
WB115/D460	一目でわかる内科学	Patrick Davey 編, 新倉春男監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2004
WB310/Ku110.4	エンドオブライフ・ケア: 終末期の臨床指針	K.K.キューブラほか編著 / 鳥羽研二監訳	医学書院	2004
WB365/Y190	漢方処方応用の実際 第 6 版	山田光胤著	南山堂	2000
WB410/I570	TPN レクチャー: 処方・手技・管理のフォトブリーフィング	井上善文著	南江堂	2004
WC140/Ku360.1	性感染症 STD	熊沢浄一ほか編	南山堂	2004
WD300/A686	アレルギー・アトピー性疾患 (日本医学会シンポジウム記録集: 第 126 回)		日本医学会	2004
WD300/F740	総合アレルギー学	福田健編	南山堂	2004
WE500/N510	筋力	奈良勲ほか編	医歯薬出版	2004
WE707/Mi730	頭頸部腫瘍学入門	宮原裕著	東京医学社	2004
WE805/Si10	上肢筋骨格系障害の診断ガイドライン: 作業関連障害の評価基準	Sluiter JK ほか著 / 日本整形外科学会労働産業委員会監訳	南江堂	2004
WE855/I910	図説股関節の臨床	糸満盛憲編集	メジカルビュー社	2004
WE860/I970a	変形性股関節症の運動・生活ガイド: 運動療法と日常生活動作の手引き 第 3 版	岩田久ほか編集	日本医事新報社	2004
WF658/Sh540a	腫瘍鑑別診断アトラス肺 第 2 版	下里幸雄, 井内康輝編著	文光堂	2004
WG140/A260	心電図を読む Heart view 新装改訂版	相沢義房編集	メジカルビュー社	2004
WG141/Ta881	心肺運動負荷テストと運動療法	谷口興一ほか編	南江堂	2004
WG141.5/J960	カテーテルスタッフのための心血管画像学テキスト	循環器画像技術研究会編	医歯薬出版	2004
WG168/I760	心臓ペースングのすべて	石川利之著	中外医学社	2004
WG170/H550	超音波メスによる新しい内胸動脈採取法: Ultrasonic complete skeletonization 法	樋上哲哉著	金芳堂	2004
WG330/N140	心房細動: 予防・管理・治療	永井良三ほか編	南江堂	2004
WG330/O550.1	新高周波カテーテルアブレーションマニュアル	奥村謙ほか著	南江堂	2004

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
WG330/Y441	心房細動	山下武志編	メジカルビュー社	2004
WH100/Ka880a	ビジュアル臨床血液形態学 改訂第2版	勝田逸郎ほか著	南江堂	2004
WH250/O770b	白血病・リンパ腫・骨髄腫：今日の診断と治療 第3版	押味和夫編著	中外医学社	2004
WH380/Ko210.1	必携造血細胞移植：わが国のエビデンスを中心に	小寺良尚，加藤俊一編集	医学書院	2004
WI141/Y330/4	消化器内視鏡止血術（消化器内視鏡臨床手技シリーズ：4）	浅木茂編	メジカルビュー社	2004
WI400/H540	下部消化管疾患を探る（シミュレーション内科）	日比紀文編著	永井書店	2004
WI700/Ko541/2003	厚生労働科学研究費肝炎等克服緊急対策研究報告平成15年度		同研究班	2004
WI700/Ta360	肝の最新MRI	谷本伸弘編著	金原出版	2004
WI770/Mo230	肝移植アトラス	Molementi & Klintmalm 著 / 幕内雅敏監訳	エルゼビア・ジャパン	2004
WJ168/A620	泌尿器科周術期管理のすべて	荒井陽一，松田公志編集	メジカルビュー社	2004
WK835/D280	循環器医が治療する糖尿病と大血管障害	代田浩之ほか編	メジカルビュー社	2004
WL340.2/D950	運動性構音障害：基礎・鑑別診断・マネージメント	Joseph R. Duffy 著，苅安誠監訳	医歯薬出版	2004
WL340.5/D880a	失語症のリハビリテーション：全体構造法のすべて 第2版	道関京子編集	医歯薬出版	2004
WL340/N771a	言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第2版	平野哲雄ほか編集	協同医書出版社	2004
WL354/Sh640/26:1	神経外傷：Neurotraumatology vol.26:1（2003）		日本神経外傷学会	2003
WL354/Sh640/26:2	神経外傷：Neurotraumatology vol.26:2（2003）		日本神経外傷学会	2003
WL368/Ma880.2	医学生のための脳神経外科学必修講義	松谷雅生著	メジカルビュー社	2004
WL368/Y460/1	脳神経外科手術アトラス 上巻	山浦晶編集	医学書院	2004
WL400/Y161	エキスパートのための脊椎脊髄疾患のMRI	柳下章編	三輪書店	2004
WL704/Mo550	ペインクリニックと東洋医学	森本昌宏編集	真興交易（株）医書出版部	2004
WM290/Sa750	5日間でタバコをやめる本：禁煙指導の専門医が教える	佐々木温子著	日東書院	2003
WN160/Ki240	診療放射線技師のための臨床実践ハンドブック	菊池雄三ほか編	文光堂	2004
WN206/I140	CT造影理論	市川智章編集	医学書院	2004
WN250/N810a	放射線治療物理学 第2版	西臺武弘著	文光堂	2004
WO100/D820a	ワシントン外科マニュアル 第2版	Gerard M. Doherty ほか編 西文雄ほか監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2004
WO211/Ma810	華岡青洲と「乳巖治験録」	松木明知著	松木明知	2004
WO300/A810	局所麻酔：その基礎と臨床	浅田章編集	克誠堂出版	2004
WP141/C420	産婦人科超音波診断アトラス（Atlas Series 超音波編；Vol.9）	千葉喜英編著	ベクトル・コア	2004
WP480/Ku610	コルポ診の臨床ABC	栗原操寿，塚崎克己著	メジカルビュー社	2004
WR140/Mi710.5	皮膚心療内科	宮地良樹，久保千春編集	診断と治療社	2004
WR141/I970	カラーアトラス皮膚診断の技法：皮膚を診ると全身が見える	岩月啓氏，宮地良樹編集	診断と治療社	2004
WS200/O880a / イラスト	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 改訂3版 イラスト編	金子堅一郎編集	南山堂	2004
WS200/O880a / 解説	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 改訂3版 解説編	金子堅一郎編集	南山堂	2004
WS205/I140	内科医・小児科研修医のための小児救急医療治療ガイドライン	市川光太郎編集	診断と治療社	2004
WS270/N770	小児整形外科テキスト	日本小児整形外科学会教育研修委員会編	メジカルビュー社	2004
WT155/N390	よくわかるアルツハイマー病：実際にかかわる人のために	中野今治，水沢英洋編集	永井書店	2004
WV335/I430	名医のわかりやすい花粉症・アレルギー性鼻炎（同文名医シリーズ）	今井透著	同文書院	2005

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
WV335/Su360	スギ花粉症克服に向けた総合研究：成果報告書 第1期 (平成9-11年度)		科学技術庁研究開発局	2000
WW140/Z40	脳損傷による視覚障害のリハビリテーション	ジョセフジール著 / 近藤裕見子ほか訳	医学書院	2004
WX2/To461.1/2000-2001	東京慈恵会医科大学附属第三病院年報 平成12-13年度 (2000-2001)			2002
WX2/To461.1/2003	東京慈恵会医科大学附属第三病院年報 平成15年度 (2004)			2004
WX140/N770	医療・高齢者施設の計画法規ハンドブック：建築に関する基準の概要と留意点 三訂版	日本医療福祉建築協会編	中央法規出版	2005
403/Ka164a / 参考2	科学大辞典 第2版	国際科学振興財団編	丸善	2005
407/St40 (参考11論)	ORI研究倫理入門：責任ある研究者になるために	Nicholas H. Steneck 著 / 山崎茂明訳	丸善	2005
464.1/Ka280a	分子細胞生物学基礎実験法 改訂第2版	新垣尚捷ほか編集	南江堂	2004
Ref. 禁帯出	若葉マークのPubMed (INFOSTAブックレットシリーズ；5)	牛沢典子著	情報科学技術協会	2005

新着案内 (洋書) (2005. 5. 23 ~ 5. 29)

請求記号	書名	著編者	出版者	出版年
QU56/C710	The ubiquitin-proteasome proteolytic system : from classical biochemistry to human diseases (Recent advances in human biology ; v. 9)	editors, Aaron J. Ciechanover, Maria G. Masucci	World Scientific	2002
QU58.7/Sc20	RNA interference in practice : principles, basics, and methods for gene silencing in C. elegans, drosophila, and mammals	Ute Schepers	Wiley-VCH	2005
QU135/B240/1	Aspartic and metallo peptidases (Handbook of proteolytic enzymes ; v. 1)	edited by Alan J. Barrett et al.	Elsevier Academic Press	2004
QU135/B240/2	Cysteine, serine and threonine peptidases (Handbook of proteolytic enzymes ; v. 2)	edited by Alan J. Barrett et al.	Elsevier Academic Press	2004
QV38/B650	Handbook of toxicogenomics	Jürgen Borlak ed.	Wiley-VCH	2005
QZ4/Ma320	Cells, tissues, and disease : principles of general pathology 2nd ed.	Guido Majno, Isabelle Joris	Oxford University Press	2004
WA670/R920	Aerosols handbook : measurement, dosimetry, and health effects	edited by Lev S. Ruzer and Naomi H. Harley	CRC Press	2004
WB410/R640	Clinical nutrition : enteral and tube feeding 4th ed.	Rolando H. Rolandelli, editor-in-chief	Elsevier Saunders	2005
WG104/I750	Organ microcirculation : a gateway to diagnostic and therapeutic interventions (Keio University international symposia for life sciences and medicine ; v. 13)	H. Ishii et al. ed.	Springer	2005
WH190/Ko120	Artificial oxygen carrier : its front line (Keio University international symposia for life sciences and medicine ; v. 12)	K. Kobayash ed.	Springer	2005
WI435/Mu290 /25(参考9)	Multi-institutional registry of large bowel cancer in Japan ; Vol. 25	edited by Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum	Japanese Research Society for Cancer of the Colon and Rectum	1992
WK800/L140	Current human islet isolation protocol	Jonathan R.T. Lakey et al.	Medical Review Co.,Ltd.	2004
WK810/J780c	Joslin's diabetes mellitus 14th ed.	edited by C. Ronald Kahn	Lippincott Williams & Wilkins	2005
WM171/R680	Late-life depression	edited by Steven P. Roose, Harold A. Sackeim	Oxford University Press	2004
WO100/P930e	Schwartz's principles of surgery 8th ed.	F. Charles Brunicaardi ed.	McGraw-Hill, Medical Pub. Division	2005
WO600/Su490	Making history of plastic and reconstructive surgery (Hokkaido University medical library series ; v. 49)	Tsuneki Sugihara/co-editor, Yuhei Yamamoto	Hokkaido University, Graduate School of Medicine	2005
WP815/U450	Research and development in breast ultrasound	E. Ueno et al. ed.	Springer	2005

お 知 ら せ

標本館委員の変更

平成 17 年度より、新たに標本館委員が以下の通り委嘱されました。

神 尾 正 己 議長 (脳神経外科学講座 講師)
橋 本 尚 詞 委員 (解剖学講座第 2 助教授)
清 川 貴 子 委員 (病理学講座 講師)
熊 谷 正 広 委員 (熱帯医学講座 講師)
鴻 信 義 委員 (耳鼻咽喉科学講座 講師)
阿 部 俊太郎 委員 (法医学講座 助手)

OID Technologies 社のデータベースのデザインが変わりました

MEDLINE や The Cochrane Library などのデータベースでご利用いただいている OVID 社の検索画面のデザインが変更になりました。関連文献を検索できる“Find Similar”や引用文献を検索できる“Find Citing Articles”など新しく追加された機能もあります。図書館では新デザインに合わせて改訂したマニュアルを用意しているほか、講習会を開催いたしますので、ご参加ください。

[OID で利用可能なデータベース]

MEDLINE：世界中の主要な生物医学文献を検索できます

CINAHL：海外の看護及び健康関連の文献や各種資料を収録しています

ACP Journal Club：批判的吟味を経た論文の要約を検索・閲覧できます

The Cochrane Library：システマティック・レビューや RCT が検索できます

(図書館・利用サービス係 内線 71-2122)

各種委員会

・第 506 回医学情報センター図書館委員会

平成 17 年 6 月 21 日 (火) 於 E 棟会議室 (西新橋校)